

特別座談会

(3)面から続く

わす重要になっていま
す。出席者の皆さんに
は、管工事・設備業界で
働く女性のバイオニアと
して今後も活躍いただ
くことを期待しておりま
す。私も社会福祉や社会
保障、雇用政策などの観
点からお話させていただ
き、ご参考になれば幸い
です。

藤原 現在担当してい
る主な業務や業界に入っ
たきっかけ・印象、仕事
のやりがいなどについて
聞かせてください。

田母神 管工事業界で
働くことになったのは、
父が設備工事会社を経営
していたからです。私自
身は当初異業種で仕事を
していたのですが、当社
で長年事務を担当してい
た方が定年退職すること
になり、母から手伝って
ほしいと頼まれたため入
社することになりました。
父から入社の話はあり
ませんが、7人兄弟で兄
が2人いるのですが、
跡を継いでいなかったと
も入社を決める大きな
理由になりました。

神谷 27歳まで米國
で水上スキーをやった
のですが、父から
将来のことも考えるよ
うに促され、家業であ
った管工事業を手伝う
ことを意識するようにな
りました。幼少時から
ある程度知識がありま
したし、7人兄弟で兄
が2人いるのですが、
跡を継いでいなかったと
も入社を決める大きな
理由になりました。



藤川 幸造氏(ふじかわ・こうぞう)

1948年11月28日生の74歳。富山県富山市出身。2003年7月全管連理事就任、2019年7月会長。同年旭日双光章。趣味はゴルフ。



小野 仁美さん(おの・ひとみ)

管工機材総合商社の(株)小泉中央城東営業所所属。人が生活するうえでなくてはならない衣・食・住の中で「住」に携わる仕事がしたいと入職。趣味はダンス。

管事業は男社会だ
と聞いていましたし、自
囲からは男性、女性とい
う区別はあまりないとい
う状況に変わりは
感じています。

管事業は男社会だ
と聞いていましたし、自
囲からは男性、女性とい
う区別はあまりないとい
う状況に変わりは
感じています。

なごも周囲に相談
しながら経営するス
タイルでした。その中で
女性力を入れています。
女性の営業社員が集ま
って情報交換したり女性
独自の悩みを相談するな
ど、よい方向に向かうに
はこうした取り組みが整
っているか試行錯誤しな
がら業務を行っています。

フィンランドには一
つの家族に保健師一人が
専ら担当するネウボラ
という公的子育て支援制
度があり、子育てを社会
全体で考える仕組みが整
っています。母親一人に任
せてきり日本とは大き
く異なっており、それが
子どもを育てやすい
社会につながっているの
ではないでしょうか。

社会全体で子育て支援

意欲ある女性の活用を

育児は周囲の協力必要

ました。入社後4年目
にして急逝したため経営
者として事業を継承す
ることに決まりました。

父が急逝したため経営
者として事業を継承す
ることに決まりました。

を頼るような取組も
あったと思います。

小野 管工事・設備業
界に入ったのは、営業志
望だったことと衣食住の
中で自宅に隣接する仕
事に携わりたいというこ
ろがあったこと、営業
の仕事では、お客さまと
打ち合わせをする中で自
分の提案が採用される形
になることが醍醐味であ
り、やりがいにつなが
っています。今も女性の
営業は少な、会社も女
性の営業を増やす取組
を実施しています。

先代は何でも自分で決
める一面がありました。

先代は何でも自分で決
める一面がありました。

神谷 日本が子どもを
生み育てにくいのは、育
児は女性がするものとい
う考え方が社会に根強く
残っているからだと思います。
ベビーカークで公共
交通機関を利用するとい
うことも、女性に負担を
かけているからだと思います。

田母神 男性の育児休
暇取得は日本でも力を入
れられていますが、働く意
識が高まっている女性
が増えている現在、出産
のタイミングなどは以前
より難しくなっている
と感じます。

田母神 私自身も育休を自
主的に取得したことがあ
ります。国としては女性が
出産・育児をしながら働
き続けることができるよ
う、さまざまな障壁を取
り除く施策を展開してい
ると思います。

田母神 育児の前
提条件として伴侶を得
たのかどうかという問題
があり、独身という選択
をする人が増えているの
も事実です。その意味
では、制度を整えながら
家庭

田母神 私は育休を自
主的に取得したことがあ
ります。国としては女性が
出産・育児をしながら働
き続けることができるよ
う、さまざまな障壁を取
り除く施策を展開してい
ると思います。



田畑 裕明氏(たばた・ひろあき)

1973年1月2日生の50歳。衆議院議員(富山1区)。厚生労働大臣政務官、総務副大臣を歴任し、現在自民党厚生労働部会部会長。自民党水道事業促進議員連盟所属。妻は女優の内田もも香(元宝塚歌劇団)、藤川全管連会長の高校の後輩。



藤原 和彦氏(ふじわら・かずひこ)

1962年3月26日生の61歳。三重県四日市市出身。2017年7月全管連理事、2019年7月理事・広報部長。同年国土交通大臣表彰。趣味はトランペット。

(3)面から続く

特別座談会



神谷 晴江さん(かみや・はるえ)

東京都中央区出身。1933年に創業した老舗水道工事業者の4代目社長。水上スキーと祭りをこよよく愛す。2018年水上スキー世界チャンピオン。全管連青年部監事。

画を策定し、様々な取り組みを官民が一体となって行ってきました。その実感がありますか。
神谷 よい取り組みだと思いますが、一方のな胞案のような感じもします。女性が働き続けるためには周囲の理解が必要で、もっと現場目線で行き出す必要があると思います。
田畑 神谷さんと田母神さんは経営者の視点から女性社員を増やしたいと考えていますか。
神谷 私たち女性社員を増やしたいと考えています。国の制度の中には女性を雇用すると助成金をい

(4面から続き)
族に対する意識改革も同時に進めていかねばならないと思います。身。近に出産・育児をしながら働き続けるモデルが、ないという点も真剣に考えなければいけない問題です。企業に努力して、ただの部分もあります。た、企業にしても団体にしても人件費の増減を考えないわけにはいきません。こうしたケースで公的支援が得られるなら、育休の取得率アップにつながるのでは

子育てと仕事の両立を図る
公的支援強化し育休取得
女性同士の交流を強める
藤原氏



田母神 友梨さん(たもがみ・ゆり)

東京都練馬区出身。配管職種では初の女性1級技能士として技能グランプリ全国大会に出場。所定時間内に作品を完成させた快挙を達成。全管連青年部事業副部会長。

藤川 私の地元にある富山市管工事協同組合は女性職員が数名おられます。出産・育児をしながら働いている人もいます。派遣社員の方に来てもいい人件費がアップしました。企業にしても団体にしても人件費の増減を考えないわけにはいきません。こうしたケースで公的支援が得られるなら、育休の取得率アップにつながるのでは

田母神 増やしたいと思えます。20代の女性社員を複数採用しました。女性用のトイレ・更衣室の設置が

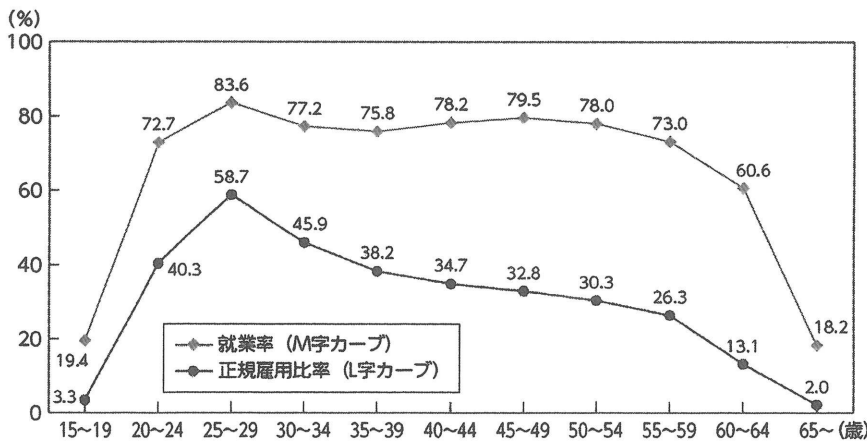
・設備業界のニーズを、知っている人が必要です。女性に働いてもらいたくないという、積極的に関知していただければ幸いです。
「女性の定着促進に向けた建設業行動計画」に関連して、建設業で女性の雇用を増やすには何が必要か周囲の意見を聞いたところ、一番はトイレと更衣室という回答が返ってきました。女性用トイレ・更衣室の設置が

ただけるものもあるの、できるだけ活用してきたいと思えます。こうした制度はあまり知られていないため、積極的に関知していただければ幸いです。
「女性の定着促進に向けた建設業行動計画」に関連して、建設業で女性の雇用を増やすには何が必要か周囲の意見を聞いたところ、一番はトイレと更衣室という回答が返ってきました。女性用トイレ・更衣室の設置が

だ、グループ全体では80名の営業社員のうち女性88名に達しています。女性を増やすための環境整備が今後の課題です。
藤原 令和4年10月1日から改正育児・介護休業法が施行されました。社内制度を改定して対応する企業も増えていますが、次元の子育て支援策として、育休中の収入減をカバーしていくことを検討しています。
田畑 いわゆる産後バ

女性の年齢階級別正規雇用比率 (L字カーブ) (令和3 (2021) 年)

○女性の年齢階級別正規雇用比率 (L字カーブ) は25~29歳の58.7%をピークに低下。



(備考) 1. 総務省「労働力調査 (基本集計)」より作成。
2. 就業率は、「就業者」/「15歳以上人口」×100。
3. 正規雇用比率は、「正規の職員・従業員」/「15歳以上人口」×100。